

教育委員会事務の点検・評価

(平成30年度点検評価書)

令和元年9月

小山町教育委員会

<はじめに>

1 趣旨

地方教育行政の組織及び運営に関する法律の規定に基づき、教育委員会の事務の管理及び執行状況について、自己点検及び評価を行い、その結果を議会に提出するとともに、公表するものであり、PDCAサイクル（※）を重視し、次年度以降の事務執行に資するため、自己点検及び評価を行い、点検評価書としてまとめることとする。

※「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」抜粋

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第27条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第3項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

※ PDCAサイクル：Plan（計画）、Do（実施・実行）、Check（点検・評価）、Act（処置・改善）の4段階を順次行って1周したら、最後のActを次のPDCAサイクルにつなげ、螺旋を描くように一周ごとにサイクルを向上（スパイラルアップ、spiral up）させて、継続的な見直しをしていくこと。

2 点検評価の対象期間

点検評価の対象期間は、前年度4月から3月までの12か月間とする。

3 点検評価の対象

点検評価の対象は、教育委員会の活動状況、教育委員会が管理及び執行する事務並びに教育委員会が管理及び執行を教育長に委任する事務を対象とする。

4 点検評価の方法

点検評価の方法は、対象期間における事務の進捗状況等を取りまとめる。なお、巻末に示している「教育委員会事務に関する数値目標」については、当該結果数値を記載することとする。ただし、アンケートにより算出される数値については、当該アンケートを実施した時のみ、結果数値を記載するものとする。

5 学識経験を有する者の知見の活用

学識経験者から自己点検評価に対する意見を聴取し、当該意見を記載することとする。

6 日程

- (1) 3月末 基準日
- (2) 7～8月 事務局による取りまとめ
- (3) 8月 学識経験者からの意見聴取
- (4) 8月 教育委員会会議にて審議
- (5) 9月 議会へ提出

7 評価書の町議会への提出

本評価書を町議会へ提出する。

8 評価書の公表

学校評価とともに本評価書をホームページ等で公表する。

<点検評価>

1 教育委員会の活動

(1) 教育委員会会議等の運営状況

ア 教育委員会の構成（4月1日現在）

(ア) 教育長 北郷中学校区選出

(イ) 教育委員

a 性別 男2人 女2人

b 年齢階層 70歳代 1人、60歳代 2人、40歳代 1人

c 学区別 小山中学校区 3人、須走中学校区 1人

イ 教育委員会会議の開催の回数

定例会を12回開催した。

ウ 教育委員会会議の傍聴状況

平成30年6月20日に1人傍聴。

エ 教育委員会会議運営上の工夫

(ア) 教育当事者の声を直接聞くためや子ども達の現状を見分するために、ふるさと給食の日に合わせるなど、小・中学校での会議開催を2回実施した。

(イ) 教育長、教育次長、専門監及び課長からの報告等において、積極的に情報提供がなされた。

(ウ) 諸規程の制定等については、当該採決会議以前の会議に事前説明を受け、慎重に審議できた。

オ 教育委員会会議の開催（議事）内容

平成30年4月27日

- ・平成30年度小・中学校、保育園、幼稚園及びこども園の学級編制について
- ・平成30年度小山町育英奨学資金の貸付について
- ・平成30年度特別支援教育推進委員の委嘱について

平成30年5月21日

- ・小山町放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部改正について

平成30年6月20日

- ・小山町給食委員会委員の委嘱について
- ・小山町平和教育生徒派遣事業実施計画について

平成30年7月24日

- ・平成31～33年度使用の中学校用「特別の教科 道徳」の教科用図書の採択について
- ・平成30年度小山町教育講演会について

平成30年8月21日

- ・ 小山町一般会計補正予算（第4号）について
- ・ 小山町育英奨学資金特別会計補正予算（第1号）について
- ・ 平成30年度小山町教育委員会感謝状贈呈の決定について

平成30年9月27日

- ・ 小山町教育委員会委員の任命について
- ・ 学校等の空調設備設置に係る調査計画について
- ・ 平成29年度小山町一般会計歳入歳出決算について
- ・ 平成29年度小山町育英奨学資金特別会計歳入歳出決算について
- ・ 平成29年度小山町教育委員会事務点検評価について

平成30年10月25日

- ・ 北郷小学校放課後児童クラブ整備事業について
- ・ 平成30年小山町教育委員会感謝状贈呈の決定について
- ・ 平成30年度前期学校評価について

平成30年11月27日

- ・ 平成30年度小山町一般会計補正予算（第8号）について

平成30年12月21日

- ・ 平成31年度教職員人事異動方針について

平成31年1月29日

- ・ 平成30年度小山町教育研究奨励賞の選考について
- ・ 平成31年度小山町育英奨学資金の貸付審査について
- ・ 平成30年度小山町教育委員会児童生徒表彰について

平成31年2月22日

- ・ 小山町放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準を定める条例及び小山町技術向上の監督業務を行わせる水道の布設工事等を定める条例の一部を改正する条例について
- ・ 平成30年度小山町一般会計補正予算（第10号）について
- ・ 平成31年度小山町一般会計について
- ・ 平成31年度小山町育成奨学資金特別会計予算について
- ・ 小山町立小・中学校管理規則の一部改正について
- ・ 小山町立小・中学校処務規定の一部改正について
- ・ 小山町立小・中学校出勤簿整理要項の一部改正について

- ・小山町立共同学校事務室組織運営規程の制定について
- ・小山町立学校教職員の自家用車の公務使用に関する取扱要綱の一部改正について
- ・小山町立学校教職員の評価結果に対する意見の申出及びその取扱いに関する要領の一部改正について

平成31年3月26日

- ・教職員の人事の内申について
- ・教育委員会の人事について
- ・小山町教育支援委員会規則の一部改正について
- ・平成30年度小山町幼保こども園・小中学校の園・学校評価について

(2) 教育委員の活動等の状況

ア 教育委員会会議以外会議等の出席状況

- (ア) 教育長職務代理者 58回
- (イ) その他の委員 延べ 118回

イ 教育委員の研修状況

- (ア) 静岡県市町教育委員会研修会
- (イ) 駿東地区教育委員会連絡協議会研修会
- (ウ) 教育委員会会議開催時における会場校の視察研修
- (エ) 駿東地区教科等指導リーダー授業研修会の視察研修
- (オ) 御殿場小山授業研修会時の視察研修
- (カ) 県及び町指定研究校の研究発表会の視察研修

2 教育委員会が管理・執行する事務

(1) 教育に関する事務の管理及び執行の基本的な方針に関すること

グランドデザイン(教育方針)を前年度3月に作成し、学校等に配布し、基本的な方針を通知した。

(2) 教育委員会規則その他教育委員会の定める規程の制定又は改廃に関すること

当該決定会議以前の会議にて、事前に案の説明を受けることを原則とした。

(3) 教育委員会の所管に属する学校その他の教育機関の設置及び廃止に関すること

設置及び廃止は特になかった。

(4) 教育委員会及び教育委員会の所管に属する学校その他の教育機関の職員の任免その他の人事に関すること

県費職員の異動については、その人事方針の確認や事前発言の機会を設けた。人事に関する決裁については、緊急性等の関係から、教育長の臨時代理として整理をしたが、教育長からは適宜情報を受けた。

(5) 法第27条第1項の規定による教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価に関すること

平成20年度から、年度中に点検評価を実施していた。

平成25年度から、年度終了後に、当該年度の状況に関する点検評価を実施している。

(6) 法第29条に規定する教育予算その他教育事務で議会の議決を経るべき議案についての意見の申出に関すること

教育予算その他教育事務で議会の議決を経るべき議案については、議会に上程する前に教育委員会で検討したが、了承すべきもののみであったため特別に意見を附する議案はなかった。

(7) 重要な教育財産の取得を申出ること

対象財産はなかった。

(8) 学校その他教育機関の敷地を選定すること

対象はなかった。

(9) 重要な工事の計画を策定すること

①小中学校のトイレ改修工事を行った。

②北郷小学校の倉庫解体工事を行った。

③足柄小学校普通教室の間仕切り改修工事を行った。

(10) 学齢児童生徒の就学すべき学校の区域を設定し、又はこれを変更すること

区域の設定、変更はなかった。

3 教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務

(1) 生涯学習の環境整備

ア 生涯学習推進体制の整備

(ア) 生涯学習推進委員会の開催による推進施策の検討

生涯学習推進委員会で、平成29年度事業の報告及び平成31年度の事業検討の他、意見交換を行った。

(イ) 生涯学習推進講演会の実施

11月23日にお笑い芸人であり、漢字研究家の「ゴルゴ松本」氏を講師に招き、「命の授業」をテーマに講演会を開催。

(ウ) 生涯学習フェスティバルの充実

2月23日に体験・展示ブースによる町民の生涯学習の成果を発表する場をつくり、フェスティバルを開催。多くの方々に生涯学習のきっかけを提供した。

(エ) NPO支援室の設置

生涯学習課の事務所内にNPO支援室を設け、NPO相談をはじめ、民間ネットワーク事業の実施や広報等の充実を図った。

(オ) 町民文化祭の充実

2日間の日程で町民文化祭を開催。

体験と出店の増加や参加者の協力により来場者も増え、好評であった。

イ 生涯学習施設の指定管理

平成27年度から総合文化会館・図書館、総合体育館、多目的広場、小山球場、小山道場、弓道場、夜間照明施設(3施設)の8施設に指定管理を導入し、指定管理者と連携して生涯学習及び体育行政の推進を図っている。

ウ 生涯学習の拠点施設の整備充実

50万円以下の軽微な修繕について指定管理者が行い、50万円以上、緊急性を要する修繕については町が行った。

町が行った主な修繕については下記のとおり。

- ・総合文化会館 スプリンクラー修繕他
- ・多目的広場 外灯修繕

エ 生涯学習情報の提供

生涯学習情報紙を4月に全戸配付し、趣味教室、子ども向け事業、自主文化事業、図書館事業等の年間計画を周知した。

広報おやまの夢ひろばや無線放送を活用し、さまざまな情報発信を行った。

オ 学校支援地域本部の体制整備と事業の推進

国費等の補助を受けコーディネーターを配置し、学校応援団ボランティア登録者の活用や学校と講師の日程調整等を行った。また、コーディネーター及び社会教育指導員が学校へ出向き、要望を直接聞いて調整する方式を推進した。

町の生涯学習の推進のため、ボランティア登録者に趣味教室等の開講を依頼し、より一層の活用を図った。

カ 中学生ボランティアの充実

中学生225人がボランティアに登録し、町民体育祭、成人式、生涯学習フェスティバル等、町内31のイベントへのボランティアを計画し、中学生が地域で活躍する場を提供した。1年間で延べ392人の中学生が参加した。

キ ふるさと金太郎博士事業の充実

町内小学3年生から中学3年生を対象に地域の行事、町主催事業等に参加することで豊かな心と地域愛、人間力を強くすること等を目指し、約82%の児童生徒が活動に参加した。

ク 施設の一部賃貸

町史編さん資料室の1階部分を、平成22年10月から小山町テレビ共聴組合に賃貸。

(2) 幼稚園・保育園・こども園・小学校・中学校教育の充実

ア 乳幼児の個性が活かされ、温かさが実感できる幼稚園・保育園・こども園

(ア) 乳幼児との信頼関係を築き、生命の保持及び情緒の安定を図り、心身の調和のとれた発達の基礎を培うことに努めた

乳幼児一人ひとりの成長に応じた質の高い保育・教育を行い、生きる力の基礎を育んできた。

園全体で、保護者との連携を密にすると共に、気軽に相談できる雰囲気作りに努めた。

(イ) 備品の充実を図る

遊具・施設・図書等の備品について、必要に応じて購入し、保育の充実に役立てている。

(ウ) 研修を推進する

28年度より「小山町幼保の会」に私立菜の花こども園が加入し、町内幼稚園・保育園・こども園の運営の一体性と子どもの育ちを支える保育・教育の一貫性を目指した体制を構築した。

また、幼保の会統一テーマを「生きる力の基礎を培う保育の創造」とし、各園で研修テーマを掲げ、それに基づいた公開保育を各園1回実施した。その中で、職員が互いの保育について研究・検討し、保育の質の向上につながった。また、園長部会を毎月、幼保こ主任部会、各年齢別部会、調理部会をそれぞれ年4回実施するとともに、外部から講師を招く研修を年3回行った。一年間の研修成果を2月に発表し職員の専門性を高めた。

職員は様々な主催による研修会に積極的に参加した。また、教育委員会主催の「特別支援教育」「初任者研修」「主任研修」等の研修会に参加し研鑽を高めた。

(エ) 地域に重点目標の開示をする

地域版のおたよりを発行し、園目標・重点目標等を開示し理解を求めた。

(オ) 「開かれた園を目指して」の取組みを進める。

町民体育大会、各地区の体育大会、文化祭等の地域行事に積極的に参加した。

各幼稚園・保育園・こども園で定期的に、園だよりを作成し、保護者に配布した。また、地域に園だよりを回覧し行事や園生活の周知に努めた。

さらに、地域の老人会との「世代ふれあいの日」を年1回実施した。

(カ) 園評価を実施する

各幼稚園・保育園・こども園は9月に職員、12月に保護者・職員を対象としたアンケートを実施し、評価書を作成し保護者にも開示した。また年度末にアンケート結果を保護者に通知した。

(キ) 教育課程に関する研究を進める

小山町統一の教育課程に基づき、各園の実態に合わせた教育課程を実践した。幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育保育要領の改訂(定)に伴い、教育課程の見直し・検討を行い、町乳幼児カリキュラムを作成した

(ク) 特別支援教育等保育の充実と安全のために支援員を定数外配置する

平成28年度から、就園支援委員会を設置し、特別な支援を必要とする園児の把握をするとともに、7園に特別支援員16人を配置した。

また、特別支援コーディネーターを中心に園内支援委員会を定期的に実施し、特別支援教育について職員間で共通理解を図った。

(ケ) 環境の整備に努める

害虫の駆除等を実施し、よりよい環境作りに努めた。

また、保護者やシルバー人材センターなど地域の方のボランティアの協力を受け環境整備に努めた。

(コ) 遊具の保守点検等施設設備の整備に努める

年1回の保守点検を実施し、要修理の遊具に対し修繕等を行った。

(サ) 園児の安全確保に努める

年間計画に沿って避難訓練、引渡し訓練、防犯訓練など防災教育を行った。モビリティ親子交通教室を年1回、交通安全指導員による交通教室を2回、職員による降園指導など、交通安全教育を実施した。

御殿場市医師会主催の「感染症予防対策等」の研修に参加した。

(シ) 園庭の芝生化事業

園児の運動意欲の増進、身体能力・体力向上、夏場の暑さ軽減を目的として、足柄幼稚園、駿河小山幼稚園、すがぬま保育園、きたごうこども園において、地域の方の支援も受け、園庭の芝生を維持した。

(ス) 民間施設（菜の花こども園）支援事業

子ども・子育て支援法に基づき、運営費として施設型給付費を給付し、子育て支援事業費（延長保育、病後児保育等）に対し、補助を行った。

(セ) スクールバスの運行について

駿河小山幼稚園に通う園児の登降園時における安全確保のため、こども育成課所有のマイクロバスの運行業務を委託し送迎を行った。

(ソ) 園・小・中の連携について

小学校・中学校教諭の2年次研修として、こども園での1日体験を実施した。また、小学校との間で年2回情報交換会を行ったり、公開保育や園での巡回相談時に小学校へ参加を呼び掛けたりしている。

保・幼（こ）・小・中の一貫教育の体制を作り、職員同士や園児・児童・生徒との交流会や防災会議などを実施し、連携を図った。

園・小・中連携の研究検討のため研修交付金を交付した。

(タ) 保育料・幼稚園保育料助成事業

保育料は第2子半額免除、第3子以降は全額免除とし、幼稚園保育料は、第2子以降は全額免除とする多子軽減施策を実施した。

イ 明るく楽しい小学校、学ぶ喜びのある中学校、可能性を伸ばし夢のある特別支援学級

(ア) 自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育てる。人権尊重、生命尊重の実践力を育てる

各学校の学校目標やグランドデザインの中に知・徳・体の各項目を取り入れ、その育成に努めた。

各種学校訪問時に学校の説明を受けるとともに必要な指導を行い、学校はそれを受け、工夫しながら実施した。

(イ) 豊かな人間性、指導力の向上のために、教職員の研修を進める

小山町教育委員会が研究指定校を設置し、指定校は2年間の研究の成果を発表した。

平成30年度、須走小学校が研究指定校2年目として、「生き生きと学ぶ子 ～縦の接続と横の連携を視野に入れた教育活動の工夫や改善～」を研究主題に研修の成果を発表した。

指定研究校以外の学校に対しても、研修費用を助成し、教職員の更なる資質の向上を図った。

御殿場市教育委員会と合同の授業研修会を6月に実施し、町内では小学校2校、中学校2校の合計4校が会場校となった。

また、初任者である教諭6人に対し、初任者研修を実施した。

県教育委員会の研修計画に従い、関係職員も研修に参加した。

その他にも、教育研究奨励賞の論文を募集（2月13日授与式）、20代30代の教職員対象の授業研修会、全教員に対する講演会として小山町教育講演会等を開催した。

また、特別支援総合推進事業として、特別支援教育研修会を3回実施し、巡回相談を幼稚園・保育園・こども園はそれぞれ2回、小中学校は1回ず

つ行った。小中学校については、希望に応じて2回目の巡回相談を実施した。各校の実態に応じて随時学校訪問を行うなど、各学校の特別支援教育体制の充実・向上に努めた。

(ウ) 児童生徒の基礎学力の定着を図るとともに、評価の充実に努める

小学校低学年の支援のため、町費で小学校1年生または2年生の学級に低学年支援員を配置した。

中学校教科指導の充実のため、専科教員のいない小山中学校・北郷中学校及び須走中学校に、県費による家庭科、美術の非常勤講師を配置した。

上記以外でも、県による加配を受け、少人数授業やT T授業等を実施した。また、加配を受けられない学校についても、工夫して少人数授業やT T授業等を実施した。

読み聞かせボランティアを利用して読書の楽しさを醸成するとともに、授業開始前等に読書時間を確保するなど、読書活動を推進した。

全国体力・運動能力、運動習慣等調査（小5年生、中2年生）に参加し、体力の実態を把握し、全校運動を展開するなどの工夫をした。

キャリア教育として、職場体験や地域の方等を招いた講演会等を実施した。

(エ) 不登校・生徒指導対策を進める

平成30年度の長期欠席（30日以上）児童生徒数は、15人であった。

不登校児童生徒に関して、金太郎教室（適応教室）を設置し、社会教育指導員2人を配置し、当該児童・生徒の受け入れや相談を行った。来室時には、個に応じた授業計画を立て、振り返りを行う中で児童・生徒理解を行い、通常の学校への復帰のきっかけとなるよう努めた。

また、町生徒指導研修会に社会教育指導員、こども相談員が参加し、町内各校の生徒指導の現状や課題、長期欠席の児童生徒の実態や情報の共有を図ることで、幅広い支援体制の構築を図った。

警察、関係者や県の児童相談所、民生児童委員等が参加する生徒指導連絡会を3回開催するとともに、実践研修中心となる生徒指導研修会を5回開催した。

県費のスクールカウンセラーが中学校区に1人ずつ配置され、相談活動を行った。また、スクールソーシャルワーカーも町に1人配置され、各機関へつなぐ方向で活動した。

各学校にいじめ対策委員会を設置し、対応の迅速化を行った。各学校は、町教育委員会にいじめ、問題行動等の事案を迅速に報告するとともに、学校と教育委員会が連携して対応にあたった。

また、いじめ防止対策推進法の方針を踏まえ、必要に応じ警察、福祉担当等の関係機関と連絡を取り合う対応ができるようにした。

(オ) 学校における事務の充実に努める（共同学校事務室）

学校の事務充実や教員の事務負担軽減のため、小山町内8校へ臨時事務員を配置した。また、小山町内の事務取りまとめ校である小山中学校は、臨時事務員を配置した。

(カ) 開かれた学校を目指す取り組みを進める

学校だより、学年だより等を作成し、保護者に配布するとともに、学校だよりについては、地域にも回覧した。

学校評議員を設置し、学校経営に対する意見を聴取した。

また、すべての学校が、町ホームページに、グランドデザインや行事・生活の様子等の学校に関する情報を掲載した。

(キ) 情報教育の充実を図る

平成 29 年度から校務支援システムを導入し、事務の効率化を図り、教職員の多忙化解消、教員が子どもと向き合う時間の確保に向けて取り組んだ。また、各学校に設置しているファイルサーバーを役場本庁一括でのセンターサーバーとし、セキュリティーの向上に努めた。

また、タブレット端末・校内無線 LAN ネットワークの導入に向けた計画を進めている。

(ク) 国際化教育を推進する。小学校での国際理解の充実を図る。

ほぼ中学校区ごとに 1 人の A L T を配置し、町内全体で 3 人を配置した。

また、夢チャレンジ事業の一環として、英語検定の検定料を全額補助し、英語力向上への支援を充実させた。

(ケ) 地域教材等の活用を図る

平成 26 年度に作成した社会科副読本「おやまー富士山と金太郎のまぢー」の改訂版を小学校に配布し、各校で活用した。

(コ) 学校教育環境の充実を図る

学校の要望を調査し、施設・設備・教材備品の充実に努めた。

遊具・体育器具を点検し、修繕が必要なものは修繕した。

(サ) 学校図書館の充実を図る

4 人の学校図書館支援員がそれぞれ 2 校を担当して、学校図書館の蔵書の整理や利用者に対しての助言等を行い、読書環境の充実を図った。

学校図書蔵書数については、国の定めている冊数以上を確保しつつ、図書に充実に努めた。

(シ) 学校給食の安全・充実を図る

すべての給食員、栄養教諭及び栄養士が参加して、6 月に東部保健所職員を講師とした衛生管理講習会を実施した。

6 月及び 11 月に、栄養教諭・栄養士及び臨時給食員で、給食業務についての検討会を行った。

各学校の給食室で行う衛生管理研修会に、栄養教諭・栄養士が給食調理場での業務について研修をした。

食材購入や献立の作成、衛生管理について検討する学校給食委員会を開催し、学校給食の安心安全の確立に努めた。

保護者等による試食会を実施した。

調理室のドライ運用に努めた。

給食食材の放射能検査を実施した。

給食食材及び調理済食品の細菌検査を実施した。

(ス) 就学奨励・援助を推進する

3 月末現在で、要保護対象児童生徒は 0 人。準要保護対象児童生徒は 83 人（小学校 46 人、中学校 37 人）が在籍し、学用品費及び給食費等の就学援助費を支給した。

特別支援学級在籍者である 23 人（小学校 13 人、中学校 10 人）の内の対象者 20 人に対して就学奨励費を支給した。

遠距離通学者への支援については、108 人に支給した。

- (セ) 町での単独設置が困難なため、御殿場市教育委員会が設置している「こ
とばの教室」の運営費の一部を負担し、該当幼児児童の言語相談を進めた。
平成30年度は、小学生3人が通級指導を受けた。
- (ソ) 中学校の進路指導・部活動の支援を進める
キャリア教育（生き方の教育）として、職場体験、地域の方を招くゲスト
ティチャー、高校説明会の参加など各校が工夫して実施した。
部活動においては、県大会・東部大会等への交通費支援や優先的な施設
貸し出し等を実施した。
- (タ) 児童生徒の学校内外における安全、安心を図る
小学校1年生に対して、防犯ブザーを配布した。
防災安全計画を学校安全計画に含め、学校経営書に明記する等、防災教
育や訓練の充実に努めた。
登下校の安全対策として、定期券の購入補助を行った。
携帯電話メールを利用した連絡方法を活用した。
- (チ) 豊かな体験活動を教育課程に位置づける
総合的な学習の時間、特別活動等を中心に、各教科・領域を通して、体
験活動を次に生かす工夫をした。
- (ツ) ボランティア活動の奨励に努める
生涯学習課担当者と連携して、町行事のボランティア活動に多くの中学
生が参加した。延べ392人（登録：225人）が参加した。
- (テ) 書道科授業の実施
小学校1年生及び2年生に対して日本の伝統芸術である毛筆による書道
に触れ、日本の伝統的な文化を大切にしようとする姿勢の基礎を培い、筆
使いに慣れ親しみ、毛筆の基礎基本を身につけることを目的に書道科の授
業を実施した。
- (ト) 心の教育を推進する
道徳の時間を中心に、学校の教育活動全体を通して、道徳教育を推進し
た。各校に配置されている県費スクールカウンセラーによる教育相談を実
施するなど、各校の生徒指導担当が中心となり有効活用を図った。
各校で朝食に関するアンケートを実施し、朝食摂取への啓蒙や生活環境
の把握に努めた。インターネット等のメディア対策については、校長会、
養護教諭部会、生徒指導部会、PTAなどで取り上げ、児童生徒が主体的
に取り組めるよう各校が工夫した児童生徒指導を行った。
- (ナ) 数値目標を学校目標に積極的に使うよう努める
各学校のグランドデザイン上に、すべての学校で、何らかの数値目標を
掲げた。
- (二) 学校評価を実施し、公開する
前期と後期に実施し、公開については教育委員会評価とともに実施する
こととした。
- (ヌ) 特別支援教育のための特別支援員を必要な学校に配置する
小学校に9人及び中学校に3人の支援員を確保し、各学校に1人以上を
配置し、学校によっては、特別支援学級への配置もした。支援を必要とす
る児童生徒に対して個別の生活支援等を行い、各学校の学習環境の充実に
資することができた。
- (ネ) こども相談員による巡回相談を実施する
こども相談員2人を配置し、小中学校を週1回巡回するようにした。児

児童や保護者との面談や教職員との情報交換を随時実施するなど学校の実態に即した相談活動を実施した。

子育て支援センター「きんたろうひろば」では、子育て支援専門員による相談活動が充実したことで子育てに関する相談件数が増加し、保護者への支援も充実した。また、健康増進課との情報交換を充実させることで、乳児期から継続的な保護者支援が行われている。

(ノ) 授業力の向上を図る

教員の授業力の向上のために授業アドバイザー2人を配置し、授業参観、事後指導等を実施して、教員の授業力の向上を図った。また、授業アドバイザーは、校内研修にも積極的に関わり、指導及び助言を行った。

(ハ) 放課後こども教室

放課後に子どもたちが安全・安心な体験・学びができる居場所づくりとして「放課後こども教室」を平成27年度須走小学校から設置。平成30年度には足柄小学校を除く4校で開設した。

(3) 児童福祉の充実

ア 子育て支援の充実

(ア) 子育て支援拠点センター

町の子育て支援の拠点として、平成30年3月子育て支援センター「きんたろうひろば」をオープンし、未就園児が安心して遊べる場所や保護者の情報交換の場所の提供とともに子育て相談等を行った。

幼稚園は、月1回の「わくわくランド」で園行事への参加、園児と未就園児や地域の方との触れ合いを行なった。

保育園は、子育て支援として未就園児や地域の方に対し、「ぺんぎんランド」、遊戯室・園庭の開放、園行事への参加を推進した。

さらに、「子育て通信」を月1回発行し、各園の行事予定や未就園児向けの催し等を広く広報した。

(イ) 放課後児童クラブの活動

保護者の労働等により、保護者等が昼間家庭にいない小学校の児童に対し、第二の家庭のような生活の場を確保し、児童が遊びや活動を通じて放課後を楽しく過ごせた。

北郷小学校放課後児童クラブ施設を平成30年2月に北郷小学校グラウンド内に改築した。

(ウ) 延長保育

保護者の就労の多様化、勤務時間の増加等による保育需要に対応するため3保育園、1こども園で実施した。

延長時間は、午後6時から午後6時30分（きたごうこども園：午後6時から午後7時00分）で、利用料については、児童1人1回につき30分以下100円、30分を超え60分以下200円。年間延べ2,272人が利用した。

(エ) 一時的保育

保護者が病気や介護、職業訓練、冠婚葬祭等で家庭にて保育ができない保護者に対し、一時保育を実施した。

年間延べ534人が利用し、子育て支援として実施できた。

(オ) 小山町子ども・子育て支援事業計画策定

平成24年8月「子ども・子育て関連3法」が成立し、平成27年4月から新たな「子ども・子育て支援新制度」開始された。そのことに伴い「小山町子ども・子育て支援事業計画」を策定し、平成30年度は、子ども・子育て会議を1回開催した。

(カ) ファミリーサポートセンター

保育所等の従来サービスでは補うことのできない時間に、子どもを預かり、必要に応じ食事を提供する等の支援を行った。

委託会員73人 受託会員24人 委受託会員14人（年度末）

平成30年度は延べ630件の利用があった。その中で、「保育施設の保育開始前や保育終了後の子どもの預かり」「保育施設までの送迎」のための利用が449件と多かった。

(キ) 要保護児童対策協議会

保護者のいない児童又は保護者に監護させることが不相当と認められる児童の早期発見及び適切な保護を図るために設置。

児童福祉、保健、医療、教育、労働、警察及び人権擁護の各関係機関で組織し、積極的な情報交換で連携を深め、要保護児童やその保護者の支援を行った。

代表者会議を年1回、実務者会議を年4回、ケース検討会議を毎月、年12回、個別ケース検討会等を実施した。

イ 障害者福祉の充実

(ア) 児童発達支援

療育の観点から集団療育及び個別療育を行う必要があると認められる未就学の障害児を対象に日常生活における基本的な動作の指導、知識技能の付与、集団生活への適応訓練等を行った。

また、町立保育所での保育が困難なため、富岳学園に通う園児の通所給付費を支弁した。

児童発達支援サービス利用者4人（年度末）

(イ) 放課後等デイサービス

学校教育法第1条に規定している学校（幼稚園及び大学を除く）に就学しており、授業の終了後又は休業日に支援が必要と認められた障害児を対象に放課後等デイサービスを行った。

御殿場特別支援学校や支援学級に通う児童が主に利用した。

放課後等デイサービス利用者35人（年度末）

(4) 青少年を育む活動及び家庭教育の推進

ア 青少年を健やかに育む

(ア) 子ども向け事業の充実

子ども向けの教室は工作、料理、実験と幅広い分野で実施した。

No.	教室名	実施日	指導者	対象	人数 累計
1	母の日プレゼント作り (ルームコロン)	5月12日	講師ボランティア 志村 文久子 氏	小・中学生	12
2	父の日プレゼント作り (本立て)	6月2日	特定非営利活動法人 土に還る木森づくりの 会	小・中学生	20
3	わくわく科学教室	8月10日 8月17日	米山 豊 氏	小学生	34
6	わくわくクッキング① (パンプキンパン)	10月20日	講師ボランティア	小学生	20
7	クリスマス企画 (スノードーム作り)	12月15日	中学生ボランティア	小学生	20
8	わくわくクッキング②	※生涯学習フェスティバル内で開催			

(イ) 子ども会活動の支援

町子連球技大会、子ども会ボランティア実践活動等の支援を行った。また、3町合同ジュニアリーダー研修会、写生画展、年間行事子ども会活動展示等の支援を行った。

(ウ) 青少年健全育成団体活動への支援

P T A 連合会、ボーイスカウト御殿場小山地区、ガールスカウト静岡県第33団及び34団、竹之下太鼓保存会、大富士公時太鼓保存会、連合青年団、青少年健全育成会、子ども会育成連合会に助成金を交付するとともに、活動支援を行った。

(エ) 青少年活動指導者リーダーの育成

県主催の青年の船等の研修事業に小山町からの参加者がいる場合は交付金を支出することとしているが、平成30年度は参加者がなく支出はなかった。

(オ) 成人式の実施

町内中学生が司会やよさこい、琴の演奏を披露、また、青年団、婦人会等の各種団体の協力により開催した。

(カ) 通学合宿等の実施

No.	事業名	実施日	支援内容等	参加者	参加人数
1	成美小通学合宿	9月27日～29日	計画の支援 活動の支援 緊急時の対応	4年～ 6年	33人
2	明倫小 防災体験合宿	8月3日～4日	計画の支援 活動の支援 緊急時の対応	全学年	17人
3	足柄小通学合宿	10月18日～20日	計画の支援 活動の支援 緊急時の対応	4年～ 6年	30人
4	北郷小 防災体験合宿	8月9日～10日	計画の支援 活動の支援 緊急時の対応	4年～ 6年	64人
5	須走小通学合宿	10月12日～13日	計画の支援 活動の支援 緊急時の対応	4年～ 6年	17人

イ 家庭教育の充実

(ア) 家庭教育学級の実施

町内の全幼稚園、全小中学校で実施し、費用の一部を支援した。

(イ) 家庭教育に関する情報の提供

社会教育指導員を配置し、情報の提供に努めている。

(ウ) 家庭教育指導者の養成

各学校に家庭教育主事を設置し、5月に研修会を開催した。また、各学校からの要請により、社会教育指導員等を派遣し、指導に当たった。

ウ 青少年を取り巻く環境の整備

(ア) 青少年補導員活動の実施

青少年補導員を委嘱し、15人の青少年補導員と生涯学習課職員5人で、各地区3～4回の補導を実施した。

(イ) 有害図書等の排除

社会教育担当職員が、町内すべての書籍販売所（コンビニ）を現地確認し、指導した。夏季と冬季に各1回実施される県内一斉補導において、町内で書籍を販売する全てのコンビニを確認し、有害図書等の排除に努めた。

エ 相談事業の推進

こども育成課にこども相談員を配置し、保育園、幼稚園、こども園、小中学校等に対して巡回指導を行い、さらに、電話相談の出来る体制とした。

こども育成課では、指導主事による相談を随時受け付けている。

また、不登校の子どもたちの相談や勉強する場を提供する「金太郎教室」を開設した。

オ 育英制度の推進

育英奨学金は、大学生及び専門学校生10人に貸与した。

奨学資金貸付金の月額は大學生30,000円、高校生12,000円

(5) 豊かな人生を創出する社会教育の充実

ア 学習機会の提供と充実

(ア) 町民の生涯学習を充実するため各種講座、教室、展示を指定管理者が
開催。

<趣味教室>

No.	教室名	実施日	講師	対象	参加人数
1	ピアノ教室	全 33 回	カワイ楽器	年少～一般	160
2	ママとベビーの英会話	月 1 回	マンボ・ジャンボ 英会話教室	未就園児と 保護者	108 組 217 名
3	キッズイングリッシュ	月 2 回	マンボ・ジャンボ 英会話教室	園児	55
4	こどもえいご サマー (ベビー)	7 月 10 日 8 月 7 日	マンボ・ジャンボ 英会話教室	未就学児と 保護者	11 組 22 名
5	こどもえいご サマー (キッズ)	7 月 10 日 8 月 7 日	マンボ・ジャンボ 英会話教室	園児	15
6	クリスマスイングリッシュ (ベビー)	12 月 19 日	マンボ・ジャンボ 英会話教室	未就学児と 保護者	6 組 12 名
7	クリスマスイングリッシュ (キッズ)	12 月 19 日	マンボ・ジャンボ 英会話教室	園児	5
8	おとなの英会話教室	月 2 回	マンボ・ジャンボ 英会話教室	一般	83
9	バレエ教室	全 37 回	バレエサークル OZ 深澤伸子	年少～ 中学生	493
10	水彩画体験教室	5 月 10 日	アトリエ 長田 結花	一般	4
11	水彩画教室	月 2 回	アトリエ 長田 結花	一般	38
12	習字教室 (毛筆の技法)	月 4 回	日本習字教育財団 須藤 祥光	園児 ～一般	149
13	習字教室 (写経)	全 3 回	日本習字教育財団 須藤 祥光	一般	14
14	習字教室 (ポチ袋)	全 1 回	日本習字教育財団 須藤 祥光	一般	3
15	硬筆体験	全 1 回	日本習字教育財団 須藤 祥光	園児 ～小学 2 年	12

16	習字夏休みお助け講座	全1回	日本習字教育財団 須藤 祥光	小学生	33
17	実用筆ペン講座	全3回	日本習字教育財団 須藤 祥光	一般	53
18	飾り寿司教室	全1回	栗原 久仁子	一般	24
19	アロマテラピー教室	月1回	田代 華奈子	一般	41
20	ベビーマッサージ教室	月1回	田代 華奈子	未就学児と 保護者	15組 30名
21	陶芸教室	全4回	高嶋 正則	一般	40

<町民講座・ふるさと発見講座>

No.	講座名 講座タイトル	実施日	講師	対象	申込者 数/定員	参加 人数
1	町民講座① 「夏休み子ども消費生活講座」商品テスト、講座	8月8日	県東部県民生 活センター職 員、くらし安 全課職員	小学生以上 の町内在住 在勤者	15/30	15
2	町民講座② 「須走口登山道を歩いてみ よう」	9月8日	県富士山世界 遺産センター 准教授 大高康正 氏	町内在住 在勤者	20/30	雨天 中止
3	町民講座③ 「富士山須走口登山道の歴史と民俗」	8月12日	東京都立産業 技術高等専門 学校 名誉准教授 菊池 邦彦 氏 松田民俗研究 所代表 松戸 香代子 氏	町内在住 在勤者	54/50	50
4	ふるさと発見講座① 「森村橋と鮎沢橋に ついて」	8月4日	八千代エンジニ ヤリング(株) 専門部長 永富大亮 氏	小学生以上 の町内在住 在勤者	29/30	24
5	ふるさと発見講座② 「新東名について」	8月11日	NEXCO 中日本 川尻克利 氏	小学生以上 の町内在住 在勤者	52/50	49

<その他>

No.	事業名	実施日	場所	内容	参加人数
1	原爆展	8月3日～ 8月17日	展示室	広島・長崎原爆 パネル展示	320
2	第62回町民文化祭	10月13日～ 10月14日	総合文化会館	展示・舞台・ 体験	5,174
3	生涯学習推進講演会	11月23日	金太郎ホール	ゴルゴ松本氏	700
4	新春書道展	1月6日～ 1月18日	展示室	書道連盟会員の 作品展	147
5	小山町成人式	H31年 1月13日	金太郎ホール		179
6	生涯学習フェスティバル	H31年 2月23日	総合文化会館	展示・販売・ 実演・体験	1,650
7	家庭教育学級	通年	町内全幼稚園 こども園 小・中学校	各学級8～10回 の講座を実施	347

<NPO支援室主催の講座等>

NO.	事業名	場所	実施日	内容
1	NPO総会の運営講座	総合文化会館	1回	NPO総会の運営方法について県NPOセンターと連携して開催
2	NPOスキルアップ講座	総合文化会館	1回	プレゼン能力向上のために効果的なパワーポイントの作成とプレゼン方法について学習
3	NPO交流連携事業	総合文化会館	1回	御殿場警察署と連携し、「防犯と地域交流」について高齢者支援の方法についての講演を行った。
4	NPO連携交流会	金時テラス	1回	NPO3団体が共同で「竹飯づくり」を行いながら交流と情報交換等を行った。
5	NPO設立相談	総合文化会館	月1回	NPO設立や会計報告等に関する相談会

イ 社会教育団体への助成

連合婦人会、連合青年団等8団体に助成金を支出している。

(6) 健康で明るい人生を支えるスポーツの振興
ア 各種スポーツ大会等の開催・参加及び協力

No.	大会名	対象	開催時期	場所	人数
1	第26回小山町レクスポ祭	町内参加 チーム	9月1日(土)	総合体育館	96
2	第28回町民スポーツ祭 (野球、ソフトボール、バレーボール、ゲートボール 卓球、バドミントン、ゴルフ)	一般	6月7日(木) ～ 7月22日(日)	総合体育館他	415
3	第12回しずおかスポーツフェスティバル パークゴルフ小山町大会	県内参加チ ーム	6月14日(木)	小山町 パークゴルフ場	86
4	平成30年度 町民体育大会	町民	10月8日 (月・祝)	多目的広場	1,500
5	第6回杉山祥子杯バレーボール大会	県東部地区 女子中学生	12月1日(土)	総合体育館	16チー ム 250
6	第26回駿東地区レクスポ大会	駿東地区内 代表チーム	11月18日(日)	総合体育館	(町内 46)
7	第19回静岡県市町対抗駅伝競走大会	小山町代表 チーム	12月1日(土)	静岡市内	選手 26 応援 38
8	富士マラソンフェスタ 2018	一般	12月23日 (日・祝)	富士スピード ウェイ	2,645
9	第66回町内一周駅伝 第14回周回コース駅伝大会	一般	1月20日(日)	町内 多目的広場	1,265
10	第19回町スポーツ少年団交流大会	スポーツ少 年団	2月16日(土)	総合体育館	170

イ 各種スポーツ教室の開催

体育施設の指定管理が実施した。

No.	教室名	場所	実施日	講師・指導者	対象	参加人数
1	HIP HOP 教室①	総合体育館	全7回×3期	シンコースポーツ	4歳以上～未就学児	121
2	HIP HOP 教室②	総合体育館	全7回×3期	シンコースポーツ	小学生	60
3	体育教室 (幼児クラス)	総合体育館	月3～5回	カワイ楽器	年少～年長	669
4	体育教室 (児童クラス)	総合体育館	月3～5回	カワイ楽器	小学1年～5年	380
5	らくらくトレーニング	総合体育館	月2回 (4月～12月)	シンコースポーツ	18歳以上の男女	33
6	ジュニア卓球教室	総合体育館 総合文化会館	月3回	シンコースポーツ	小学生	206
7	シニア卓球教室	総合体育館 総合文化会館	月2～4回 (9月から)	シンコースポーツ	60歳以上	360
8	コンディショニング 教室	総合体育館	5月30日	シンコースポーツ	18歳以上の女性	1
9	ピラティス教室	総合体育館	月2回 (4月～12月)	シンコースポーツ	18歳以上の女性	27
10	リラックスヨガ	総合文化会館	月2～3回	シンコースポーツ	18歳以上の男女	313
11	メディティティブヨガ	総合体育館	月2～3回	シンコースポーツ	18歳以上の男女	165
12	ストラックライン教室	総合体育館	月3～4回 (5月～8月)	シンコースポーツ	小学生～一般	71
13	かけっこ教室	総合体育館	全13回 (8月～11月)	シンコースポーツ	小学生～中学生	68
14	動けるカラダづくり	総合体育館	10月18日	シンコースポーツ	中学生以上	1

ウ スポーツ推進委員活動の推進

小山町レクスポ祭、駿東地区レクスポ大会をスポーツ推進委員が行った。

平成24年度から毎月スポーツ推進の日を設け、スポーツ推進委員による軽スポーツ等の普及指導を行っている。

スポーツ推進委員を各種軽スポーツの指導に派遣している。

駿東地区スポーツ推進委員連絡会が開催している研修会にスポーツ推進委員が参加し、技術の向上に努めた。

エ スポーツ施設の充実と開放

(ア) 学校体育施設の開放

No.	学校名	登録団体数	活動種目
1	成美小	6	ミニバス バレー 太極拳 サッカー 等
2	明倫小	5	ミニバス バレー 剣道 サッカー等
3	足柄小	2	バレー 剣道 バドミントン等
4	北郷小	7	ミニバス バレー バドミントン サッカー 野球等
5	須走小	4	ミニバス 空手 サッカー等
6	小山中	5	バレー バドミントン ソフトテニス 野球等
7	北郷中	12	ミニバス バレー バドミントン バスケット 剣道等
8	須走中	2	バレー バドミントン 空手等

(イ) スポーツ推進の日

スポーツ推進委員がファミリーバドミントン、輪投げ、ペタボード、ヘルスバレーボール、ドッジボール、縄跳び等の実技指導を担当し、毎月実施している。

スポーツ推進の日の一環で、グラウンドゴルフ大会を開催した。

オ 各種スポーツ団体の育成、助成

(ア) 体育協会への助成

総合体育館内に事務局をおき、業務に従事できる体制を敷いている。また、体育協会の組織向上のため、町民スポーツ祭、富士マラソンフェスタ、町内一周・周回コース駅伝大会等の開催を委託したほか、スポーツ少年団の事務局として交流大会を開催する等、体育協会及び関連団体の組織力向上を図った。

(イ) 地区体育スポーツ振興会の助成

地区体育大会開催団体に、地区体育大会等のため経費の一部として助成金を支出した。

(ウ) 国体等出場者への助成

彩の国杯第13回全国中学生空手道選抜大会(稲 璃岬、遠藤友莉奈、鈴木大也)、駿東地区レクスポ大会 他

14の個人団体に奨励金を交付した。

(7) 地域に根ざした小山町文化の継承と創造

ア 文化活動の推進

(ア) 芸術文化事業の実施

幅広い年齢層が芸術文化に親しみ、文化意識の高揚を図るため、多彩な催し物を指定管理者が実施した。

No.	事業名	実施日	集客数
1	えんとつ町のプペル ☆光る絵本展	5月12日 ～17日	3,387
2	小山町よしもとふるさと劇団オーディション	6月9日	54
3	小学校芸術鑑賞会(2回公演)	6月21日	1,054
4	つながるプレコンクール	6月24日	562
5	小山町よしもとふるさと劇団稽古	7月14日 8月10日,19 日,24日	187
6	富士山金太郎夏祭り	7月28日	雨天中止
7	小山町よしもとふるさと劇団公演	8月25日	335
8	よしもと芸人と楽しむおやぶんマルシェ	9月9日	1,369
9	スタインウェイを弾いてみよう	9月23日 24日	12
10	NHK 公開収録みんなDEど～もくん	10月28日	758
11	中学校芸術鑑賞会	11月1日	414
12	いっこく堂ボイスリレーション&お笑いライブ	11月18日	478
13	OYAMA MUSIC FESTIVAL ～Wind Ver.～	12月22日	884
14	いけや賢二の料理ショー	2月23日	62
15	KINTAROCK FESTIVAL	3月2日	209
16	おやぶんマルシェ	3月9日	1,813

(イ) 町民文化祭

10月13日(土)、14日(日)で実施。展示部門では8つの部が体験コーナーを開設。パンフレットには抽選券を付け集客数の増加を図った。ボランティアの中学生、高校生も大活躍した。

(ウ) 文芸誌「駿河路」の発刊

毎年、俳句、短歌等に親しむ町民を対象に、駿河路への投稿を募集し、編集委員会にて作品検討及び校正後、投稿者等に無料にて配布した。

(エ) 文化団体育成のための助成

小山町文化連盟に助成を行った。

(オ) 文化団体活動の支援

小山町文化連盟等の年間事業及び2市1町での華道展及び書道部、写真部の展示会に支援を行った。

イ 文化財の保護

(ア) 文化財の活用普及

町内外からの文化財の問い合わせ及び視察等に対応し、参加者の年齢等に応じて解説を実施するとともに、各種団体及び来町者に講義を行う等文化財の周知・啓発活動に意欲的に取り組んだ。

また、平成29年度から国登録有形文化財の「森村橋」の復原工事を行っており、明治39年の架橋当時の状況に戻すよう、可能な限り橋梁部材を利活用しながら工事を施工している。

ウ 図書館活動の充実

(ア) ボランティアによる年齢にあった図書活動の実施

毎週土曜日に図書館おはなしコーナーでおはなしの会の実施及び小学校や保育園等からの派遣要請に応え、出張おはなしの会(18回)を実施した。

(イ) 各種図書館事業の実施(お話しの会等)

	事業名	月日	内容	講師等
1	おはなしの会	毎週土曜日	絵本の読み聞かせ	ボランティア
2	子ども読書の日 関連するイベント	5月13日	お楽しみおはなしの会、人形劇ワークショップ、本のリサイクル市	ボランティア
3	夏の夜のおはなし会	8月17日	ひと味違った夜のおはなし会、図書館での宝探しゲーム	図書館職員
4	図書館ファンクラブ	7月25日, 31日 8月1日, 2日, 7日	図書館職員体験、スクラップブック作成	図書館職員
5	秋の夜のおはなし会 おはなしレストラン	10月20日	ひと味違った夜のおはなし会、おはなしレストラン	図書館職員
6	図書館リサイクル市	10月6~8日 2月5日~6日	リサイクル本や除籍図書のリサイクル市	生涯学習課職員
7	書評合戦ビブリオバトル ~小山の戦い~	12月15日	発表者が本をプレゼンし、聴いていた人が読みたいと思った本に投票する。	図書館職員

8	絵本でかるた大会	1月19日	利用者から募集した読み札で行うかるた大会	図書館職員
9	学習フェスティバルでのおはなし会	2月23日	図書館ボランティア「お話ポケット」による大型絵本、素語り、人形劇	ボランティア
9	ブックスタート	4/11, 6/13, 8/1, 10/17, 12/12, 2/13	5,6ヶ月児と保護者を対象に、絵本を介しての子育て支援	ボランティア
10	セカンドブックプレゼント（読書通帳プレゼント）	町内小学校 一日体験入学時	町内小学校 新入学児童へ絵本を介して読書推進支援	生涯学習課職員
11	「小山町の図書館」発行	毎年7月	小山町立図書館の沿革や施設の概要等記載	生涯学習課職員
12	図書選書ツアー（児童図書）	8月21日	小学生と保護者、一般参加者が、浜松市の会場で町立図書館で購入する本の候補を選書	生涯学習課職員

(ウ) 夜間延長開館の実施

午後6時まで（金・土は午後7時）開館時間延長を実施した。

(エ) 町史の無償配付の実施

平成24年8月1日から、町史の無償配付を希望者に行っている。

(オ) 移動図書館の充実

本庁・須走支所・足柄支所にある移動図書の入替作業を年4回実施した。

エ 生涯学習社会の指導者づくり・施設の活用の推進

(ア) 学校施設・設備の活用

学校の施設を有効活用し、学社連携・地域住民の生涯学習を推進するため、寄贈された民具が収蔵されている明倫小学校の民具収蔵庫を活用し、各種委員等へ民具の説明を行った。

(イ) 団体やボランティアによる各種教室の開催

文化連盟加盟団体や講師ボランティアに趣味教室の講師を、また、町民文化祭や生涯学習フェスティバルで、体験部門を充実させることで参加団体が他者へ教えるということを実践し、団体や個人のスキルアップに繋がった。

一方、スポーツ教室も、総合型地域スポーツクラブにより、体育協会加盟団体等を活用し実施することで指導者の育成を図った。

(ウ) 生涯学習センター施設等利用増進

体育施設に指定管理制度を導入し、民間活力による施設運営を推進している。また、図書館では開館時間を金曜日と土曜日は19時まで、その他は18時まで延長し、利用者の利便性を図っている。

(8) 「明日の社会」を作る教育の推進

ア 明るく豊かな共生社会の形成を目指す

(ア) ボランティア活動の推進

ボランティア支援センターを設置し、趣味教室等での活用を図った。

講師ボランティアを随時募集し、生涯学習課主催事業に多数の協力を得た。

青少年教育の一環としてまた、地域とのつながりを大事にするため、中学生ボランティアが図書館や金太郎夏まつり等で活動した。特に、充実したボランティアを体験させるため、ハロウィーンパーティー、生涯学習フェスティバルでは事前研修を実施し、中学生によるゲームやブースの企画、運営を行った。また、子ども会の中に、中・高生を中心にジュニアリーダーズクラブがあり、子ども会事業やフェスティバルで活躍をした。

(イ) 男女共同参画社会づくりへの支援

6月27日に、特定非営利活動法人 御前崎災害支援ネットワーク 代表理事 落合美恵子 氏を講師として『災害時に行政を頼らない自助・共助・協働』と題した講演会を実施し、町連合婦人会等、男女96名が参加した。

その他各種行事への女性の参加呼び掛けや、各種委員への女性参加について引き続き依頼を行った。

イ 異文化との交流と自然との共生の実現

(ア) 国際理解の推進

スポーツ交流や講演会等への後援申請を行い、国際理解の推進を図るべく支援を行った。

ウ 民間活力の活用

NPO支援室が主催するNPO相談会を定期的を開催するとともに各種団体等の支援を実施した。

(9) 芸術文化事業入場者の満足度

目標値 80%

実績値 89.03%

実績値の算出方法については、これまでに実施済の公演来場者アンケートの回答の集計を基に算出した。各公演におけるアンケートの総回答数（記述があるものに限定）に対し、満足を得られた旨の回答の割合を算出した。内訳については下表のとおりである。

(平成31年3月末現在)

No.	芸術文化事業名	期 日	集客数	アンケート 総数	アンケート記述 あり(A)	「満足」 回答数(B)	満足度 (B/A)%
1	えんとつ町のプペル ☆光る絵本展☆	5/12～ 27	3,387	3,312	3,312	3,014	91.0
2	第4回小山町よしもと ふるさと劇団公演	8/25	335	155	155	111	71.6
3	いっこく堂ボイスイリュ ージョン&お笑いライブ	11/10	478	276	276	206	74.6
4	OYAMA MUSIC FESTIVAL ～School ver.～	12/22	884	288	288	258	89.6
計			5,084	4,031	4,031	3,589	89.03

教育委員会事務に関する数値目標

	目標項目	初年度値 (H27年度)	現状値 (H30年度)	目標値 (目標年度)	備考
1	子ども(3歳以上)は、先生に親しみを感じている(好きです)。(保育園・こども園・幼稚園の保護者アンケートの割合)	- (注1)	- (注1)	95%(H32)	
2	先生に子どものことについて相談できる。(保育園・こども園・幼稚園の保護者アンケートの割合)	92%	93%	95%(H32)	
3	学校が楽しい(小学校の児童アンケートの割合)	89.8%	88%	95%(H32)	
4	授業が分かる(小学校の児童アンケートの割合)	90.8%	91%	95%(H32)	
5	信頼できる先生がいる(小学校の児童アンケートの割合)	- (注2)	92%	95%(H32)	
6	学校が楽しい(中学校の生徒アンケートの割合)	- (注2)	85%	95%(H32)	
7	授業が分かる(中学校の生徒アンケートの割合)	80.6%	83%	95%(H32)	
8	信頼できる先生がいる(中学校の生徒アンケートの割合)	70.8%	82%	95%(H32)	
9	子育て支援に関する満足度(「安心して子どもを産み育てる環境が整っている」と回答する町民の割合)	42%	48%	50%(H31)	イ
10	保育園待機児童数	0人	0人 ※4月1日	0人(H31)	イ
11	ペンギンランド等参加者数	5,195人	13,264人	13,300人 (H31)	イ、ロ
12	「生きる力を育む学校教育が行われている」と回答する町民の割合	44%	48%	50%(H31)	イ
13	「子どもの教育について、学校・家庭・地域の連携が取れている」と回答する町民の割合	51%	51%	55%(H31)	イ
14	放課後子ども教室箇所数	1箇所	4箇所	5箇所(H31)	イ、ロ
15	「生涯学習活動の機会や場が充実している」と回答する町民の割合	44%	53%	50%(H31)	イ
16	「図書館が便利で使いやすい」と回答する町民の割合	42%	46%	50%(H31)	イ
17	家庭での読書時間について「毎日読む」「1週間の中で読む日がある」子どもの割合	就学前 87% 小学校 71% 中学校 39%		就学前100% 小学校80% 中学校50%	ハ
18	子どもの読書環境について「満足している」「ほぼ満足している」保護者の割合	就学前 87% 小学校 81% 中学校 75%		就学前95% 小学校90% 中学校90%	ハ

	目標項目	初年度値 (H27年度)	現状値 (H30年度)	目標値 (目標年度)	備考
19	子どもの読書の大切さについて「とても大切だと思う」「少しは大切だと思う」保護者の割合	就学前 93% 小学校 90% 中学校 86%		就学前100% 小学校100% 中学校100%	ハ
20	「おはなしの会」を知っている保護者の割合	就学前 80% 小学校 77% 中学校 74%		就学前100% 小学校90% 中学校80%	ハ
21	「伝統文化や郷土を大切にしている」と回答する町民の割合	65%	57%	70%(H31)	イ
22	「みんなが気軽にスポーツを楽しめる環境が整っている」と回答する町民の割合	37%	41%	50%(H31)	イ
23	体育施設(総合体育館、多目的広場、小山球場、小山道場、弓道場、夜間照明施設、トレーニング室)利用者数	66,422人	77,279人	80,000人 (H31)	イ、ロ
24	「次世代を担う子どもたちが健やかに成長している」と回答する町民の割合	64%	63%	70%(H31)	イ
25	学校応援ボランティア利用回数	15回	9回	12回(H31)	イ
26	通学合宿等参加者数	137人	161人	250人(H31)	イ、ロ
27	全中学生数に占めるボランティア登録数の割合	44%	52.6%	50%(H31)	イ、ロ
28	「地域間交流や国際交流が活発に行われている」と回答する町民の割合	27%	37%	50%(H31)	イ

※「備考」欄

イ：第4次総合計画後期基本計画における目標

ロ：「まち・ひと・しごと創生総合戦略」におけるKPI（重要業績評価指標）

ハ：第2次小山町子ども読書活動推進計画における参考目標

※注1：保育園・こども園では、0～2歳児の保護者アンケートが含まれているため、3歳以上児のアンケートを特定できなかったため、「-」の表記としました。

※注2：各校の質問表現が異なるため、平均が算出できなかったため、「-」の表記としました。

〈学識経験者の本評価に対する意見〉

学識経験者として、岩田 実氏（町放課後児童クラブ指導員・元学校長）及び湯山 薫氏（町立小学校低学年書道指導員・元教諭）から意見を聴取したところ、意見は次のとおりであった。

1 「教育委員会の活動」について

（1）教育委員会会議などの運営状況

エ 教育委員会会議運営上の工夫

- ・ 28年度5回・29年度3回・30年度2回と、小・中学校での開催が年を追うごとに少なくなっている。諸般の事情はあると思うが、教育委員の方々に直接学校現場を見てもらう機会を大切にしたい。
- ・ 法律のことはよくわからないが、例えば公開教育委員会などで町民に呼びかけてみるのはどうか。
- ・ 傍聴者を多くするとともに話し合われた内容等を発信していく方法も検討したい。

2 「教育委員会が管理・執行する事務」について

（9）重要な工事の計画を策定すること

- ・ 現代の生活環境に合わせて、変えていくことは大切である（洋式トイレ・エアコン等設置）。
- ・ 小中学校のトイレ改修工事が行われたのは良かった。（便器が大きくなったので、ボックスがたいへん窮屈になった。隣に空きスペースがあるので、他にやりようがあったのでは…と感じた。）
- ・ 北郷小の倉庫跡が整然とした駐車場となり、校地内の一方通行が厳守されるようになった。児童の安全に繋がった上に、駐車台数が多くなったので、職員・来訪者も便利になったと思う。

3 「教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務」について

（1）生涯学習の環境整備

ア 生涯学習推進体制の整備

- ・ 生涯学習推進委員会の会議内容は広範囲に渡り、大変な量である。短い会議は報告でほとんど終わってしまう。会議の内容を工夫する必要がある。生涯学習推進については、課題がたくさんあると思うので、その対策を考えていくようにしなければならないと思う。文化連盟の活動を若い方たちにいかに伝え、関わりを持ってもらうかなどは、大きな課題だと思う。

イ 生涯学習施設の指定管理

- ・ なんでも行政側でという発想ではなく、職員の人数が少ない分、指定管理制度の有効利用が望ましい。いろいろなことをスリム化する方向で。

ウ 生涯学習フェスティバルの充実

- ・生涯学習フェスティバルが1日となったが、多数の方が来場し楽しんでいて、学習成果の発表の場、生涯学習のきっかけの場、家庭での話題作りの場ともなっていると感じる。

エ 生涯学習情報の提供

- ・何がどのように実施されているのか情報発信を継続することにより、町民はだんだん認知していくのだと思う。多いに発信すべきある。

オ 学校支援地域本部の体制整備と事業の推進

- ・コーディネーターや社会教育指導員が学校へ出向き、要望を直接聞いて調整するのは大事なことなので、これからも進めていってほしい。

カ 中学生ボランティアの充実

- ・中学生のボランティアを見ていると、積極的に関わろうとする生徒が多く、とても頼もしく感じる。更に充実していってほしい。
- ・教育委員会や中学校の努力により、中学生が諸行事に参加することが当たり前の状況になりつつある。しっかりとした計画と指導があれば中学生も立派な社会の一員として活躍できる。

キ ふるさと金太郎博士事業の充実

- ・子どもたちには、小山町についての知識やいろいろな体験をたくさんして、郷土愛を持って欲しいと思うので、金太郎博士事業はとても良い事業だと評価する。
- ・校区や町内の史跡めぐり等は、個人ではなかなか計画できない。学校ごとに校区の史跡めぐりや町のバスを使用して、町内史跡めぐりをする等の行事も考えていくといいと思う。
- ・行事の宣伝時に、ポイントが前面に出過ぎているような気がする。ポイントは興味を持たせる手段だとは思いますが、ポイントやご褒美がないとやらない…という人間にならないかなという危惧もある。(この事業に限ったことではないが)参加することで、自分の中にこんなことが蓄積できた(学べた)……というようなことも強調して宣伝していってほしい。
- ・主旨は大変良いと思う。どの子も小山町について学ぶ機会があり、手帳等で記録が残ることは、今後の生活にもハリを与えられると思われる。実際には個人差や家庭差が大きくどの子も同じように参加できるわけではない。点数の増加をあまり気にせず、参加できる時に参加する程度の認識で進める場合もあることを理解してもらいたい。他と比較するのではなく個人の成長としても守ってもらいたい。参加を通して、気づき感じたことを大切にしていってほしい。子どもの成長に役立つと考える。

(2) 幼稚園・保育園・こども園・小学校・中学校教育の充実

ア 乳幼児の個性が活かされ、温かさが実感できる幼稚園・保育園・こども園

- ・乳幼児教育の大切さ（諺に曰く「三つ子の魂 百までも」）を、園・保護者・地域がしっかりと認識し、より一層の充実を図っていきたい。
- ・子育て世代が「小山町に住みたい」と思うような施策を保育料金助成として打ち出していることはよいと思う。ほかの市町との違いは何なのか。
- ・幼稚園、保育園がこども園に移行している流れの中で、職員の共通理解、意識改革が大事と思う。研修の推進を更に進めてほしい。

イ 明るく楽しい小学校、学ぶ喜びのある中学校、可能性を伸ばし夢のある特別支援学級

(イ) 豊かな人間性、指導力の向上のために、教職員の研修を進める

- ・小山町の学校は規模が小さく、ただでさえ多い校務分掌や出張のために学校を出ることが多い。研修会等大切な要素はあると思うが、必要な研修は継続し、そうでないものは思い切って止める。精査をしていくことが大事。一人一人の教師が、教材準備・研究や子どもと向き合う時間を少しでも長くとれるように仕向けてい。

(ウ) 児童生徒の基礎学力の定着を図るとともに、評価の充実に努める

- ・小学校低学年の支援員の配置は、学校現場ではとても役立っているようである。今後も継続していくことが大事である。町の低学年支援員の勤務内容をしっかりと明確にしておかないと、学校独自で都合のよい使われ方をされてしまう。校長・教頭・教務が仕事内容を確認することが大事になってくる。
- ・支援員さんの配置は、子どもたちにとっても学校にとっても大変ありがたいことである。しかし、教員が自分のすべきことを支援員さんに任せることも多く、支援員さんが休むと困ることがあるようだ。支援員さんが入ってくれて楽になった分を、子どもに返そうという意識がないと感じる。支援員さんは教員の補助ではないと自覚することが必要だと感じる。
- ・中学校の専科教員の配置は大変大事である。非常勤でも専科教員を配置したのは、大変良かった。中学校は専科の教師でしっかり授業して学力をつけてほしい。
- ・少人数やTT授業確保のために配慮があり、効果を上げている。

(エ) 不登校・生徒指導対策を進める

- ・28年度長期欠席児童生徒数は26人・29年度は16人・30年度は15人と減少傾向にある。学校体制での取り組みや先生方の努力に表れだと感じる。また、適応教室での取り組みも児童生徒に良い影響を与えていると感じる。長い目で見守ることが必要となってくる。
- ・現場の先生の声として、スクールカウンセラーと子ども相談員とは、どのように違うのか。スクールカウンセラーは、どのような役割をもって来校し、現場にどのように還元しているのか。

(オ) 学校における事務の充実を図る（共同学校事務室）

- ・パート事務員の配置は効果的である。学級や分掌の会計処理がスムーズに進むように手助けしてもらっている様子がうかがえる。学級担任や分掌担当だけが進めると業者等の対応が授業中となり無理であったが、事務関係の職員で対応してくれる場面が多くなり、教師が授業に集中できる。

(カ) 情報教育の充実を図る

- ・校務支援システムの導入により事務の効率化が進んだ。インターネットへの接続が早く可能になるとよい。
- ・タブレット端末等を使った教育については、指導する教師の研修がまず必要である。タブレットに振り回されることのないように、また、基礎学力を身につけさせる指導と共にお願いしたい。

(ケ) 地域教材等の活用

- ・社会科副読本は授業にとっても役立っている。地域を知るためにも、今後も改訂・継続をしてもらいたい。
- ・社会科の副読本「おやまー富士山と金太郎のまちー」はよくできていると思う。しかし、教員が小山町を知らないと、うまく活用もできないのではないかと各校自分の校区の研修がなされるといいと思う。
- ・地域学習の充実とふるさと金太郎博士事業がうまくつながっていくとよい。

(コ) 学校教育環境の充実を図る

- ・今年度エアコンが設置される等、いろいろと施設設備の充実を図っている。もう少し大きな目で見ると、校舎・体育館・給食棟など応急処置ではなく新規に建設しなければならない問題もある。

(サ) 学校図書館の充実を図る

- ・図書館支援員を今後も配置してもらいたい。蔵書の管理・子どもへの読書の啓発・図書館環境の整備に努めてもらっている様子がうかがえる。

(シ) 学校給食の安全・充実を図る

- ・年々アレルギー体質の児童が増え、その対応に学級担任は苦慮するが、養護教諭・栄養士・保護者・校長・担任などで面談を行い、該当児童の具体的な対応について検討している。そのような場を設定し協力してくれることはとても重要であり、今後とも継続してもらいたい。

(ス) 就学奨励・援助の推進

- ・校区にもよるが、年々一人親家庭（母子・父子）が増加し、保護対象になるのではと思われる家庭もあるが、管理職や教員にその意識が低いと、本来なら保護を受けられる家庭であっても見過ごされてしまうのではないかと危惧する。民生委員さんとの会合をしっかりと実施したい。

(タ) 児童生徒の学校内外における安全・安心を図る

- ・現場の声として、現在の防犯ブザーはちょっとしたこと鳴ったり、電池を入れ替えても鳴らなかつたりして使いにくい。（壊れやすい）

(ネ) 子ども相談員による巡回相談を実施する

- ・今年度配置された子ども相談員は、親身になって子どもや担任・学校関係者に対応してくれるので、とても感謝しているという意見を聞いた。学校の困り感を察知し、時間外に来校し様子を聞いたり相談に乗ったりしている様子である。すぐに使えるアドバイスがあり、親身になっていろいろなことをしてくれる人に対しては信頼度が高くなる。

(ハ) 放課後子ども教室

- ・担当者の努力により今年度足柄小にも開設された。教育の機会均等がしっかりと計画的になされたことは素晴らしい。今後は指導員の確保がかなり困難のようなので、人材バンク等を開設して、取り組めるとよいと思う。

(3) 児童福祉の充実

ア 子育て支援の充実

(ア) 子育て支援拠点センター

- ・多数の親子が来所し、子育てを楽しんでいる様子がうかがえた。人が集まる場所を提供し、そこへ人が集まるのが大切になってくるので、より魅力を発信できるようにしていきたい。
- ・「きんたろうひろば」がオープンしたことは大変良かった。子ども同士の交流の場や子育て中の家庭の頼もしい味方となっていると思う。
- ・働く親たちへの子育て支援が手厚くなっているのを感じる。更に進めてほしい。

(イ) 放課後児童クラブの活動

- ・働く母親が増えているので、放課後児童クラブの重要性はますます大切になってくる。支援員さんの工夫や努力により、子どもが安心して過ごせることは大変ありがたい。異学年の子と過ごす体験も非常に大切である。ともすると学校と違って規律の面で大変なこともあるかと思うが、子どもの問題行動には大人として毅然とした対応をしてもらいたい。いろいろな保護者もいると思うが「預ける」だけの意識ではなく、子育てを共に行うものとして敬意をもって接するように、全体で年に一回は保護者指導をするとよい。
- ・どのクラブも人手不足になっている。また、現状のままだと腰かけ程度の職業になってしまう。支援員さんたちの職業として考えると、現状のままでもいいのかという思いがある。
- ・足柄小放課後児童クラブの早期移転。

(4) 青少年を育む活動及び家庭教育の推進

イ 家庭教育の充実

- ・家庭教育の推進はたいへん大事。更なる推進を望む。研修会にどうやって人を集めるか、どういように進めていくか課題がたくさんあるが…。

エ 相談事業の推進

- ・不登校児童生徒の相談や学習の場に、「金太郎教室」の事業を継続して開設。不登校の児童生徒にとっての居場所があることは大切なことだと思う。

(5) 豊かな人生を創出する社会教育に充実

ア 学習機会の提供と充実

- ・継続して成り立つ教室、そうでない教室など精査することも大事なのではないかと。行政や、各種団体の多大な努力の上で成り立っていることがうかがえる。町民からの要望だからと安易に物事を進めることのないようにしたい。
- ・各種教室、講座等が多分野に渡って開催されていると評価する。このまま継続してほしい。

(6) 健康で明るい人生を支えるスポーツの振興

- ・多彩なスポーツの大会や教室が開催されており、参加者数もかなりいる。

(7) 地域に根ざした小山町文化の継承と創造

ア 文化活動の推進

- ・文化連盟のそれぞれの部で、若い人たちを取り込む対策を考えていかなければならない時期だと思う。それを是非進めてほしい。
- ・実施された図書館事業を見ると、興味深い事業が行われて感心した。努力・工夫を評価する。

イ 文化財の保護

- ・文化財の保護にはお金がかかるが、大事なことだと思う。「森村橋」は復元工事が終わったら、たくさんの町民に見てもらい、関心を持ってもらい、「森村橋」が昔のようにあることに誇りを持てるようにしたい。
- ・豊門会館や西洋館も修復工事が終わったら、町民に親しみと誇りを感じてもらえるような管理運営をしてほしい。豊門会館や西洋館の公開日に町民が関わるお茶会、絵画展、書道展等々があるといい。

(8) 「明日の社会」を作る教育の推進

ア 明るく豊かな共生社会の形成を目指す

- ・男女共同参画社会づくりのネックは、男性の意識が低いところに多くあると感じる。講演会や研修会への男性陣の参加を増やしていく事が必要だと思う。

☆教育委員会事務に関する数値目標

- ・ 8番目の項目信頼できる先生がいる（中学校）
27年度70.8%から30年度82%へとポイントが上昇している。なぜ上昇したのか具体的な例を挙げ次の世代の教員につなげていけたらよい。

☆夏休み中の学校プール開放について

- ・今年度、梅雨明けとともに夏休みが始まり暑い日が続いたが、学校のプールの開放はどれくらいの回数だったろう。ほとんどの日が、同報無線から「かみなり注意報のためプールは開放しません」。子どもたちや保護者からも、大変不満声が上がっている。「万全の安全を期す。すきを与えない」管理する側の気持ちもわからないではないが、子どもたちにとって健康で有意義な夏休みになるのだろうか。

☆教育人材補の確保

- ・幼稚園・保育園・こども園・小学校・中学校、放課後こども教室・放課後児童クラブなど、いつも教員や指導者が不足している。現行の人たちが頑張って成り立っているような感じがする。なんとかならないものか。

☆家庭教育のアウトソーシング化

- ・現状共働きの保護者が増え、本来であれば家庭教育で育成すべきものまでアウトソーシングしている。これは、ある意味仕方のないことと考える。少ない家庭教育の場となった時間を各家庭で大切にしていきたい。もともと家庭教育の大切さを考えられる仕掛けはないだろうか。